

誇れる「まち」

③ 市民検討会議、議会、市役所行政の三者で条例の議論をしていますが、理念の違いをどう調整しますか。また、職員などのようにこの条例を根付かせていきますか？

▲ 市民、議会、行政がそれぞれ考えて検討することが必要であり、さらに三者による議論を通じて、条例をつくりあげる過程と結果こそが重要です。率直に意見を交換し、あるべき条例の姿を見いだしていく必要があります。また、条例の実効性を高めるには、まず、市役所のすべての職員が条例の内容を十分に理解することが必要です。市役所行政としての条例検討では、職員から広く意見を聞くこととしています。

④ 市民のみなさんの自治に基づくとまちづくりの原則・ノウハウを定める条例のついで。

▲ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

⑤ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

▲ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

⑥ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

▲ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

⑦ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

▲ 市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会では、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。



自治会が運行するコミュニティバス（丹波市鴨庄自治会）

三田市の農業に夢をー

農業の現状が苦しい今、市の農業施策は農業者の立場に立ち、農業に「夢」を与えることができればよいと考えます。市長はどのように考えていますか？

▲ 三田市農業の状況は、「農業者の世代交代、農地の保全、食の安全安心」など、課題が山積みです。しかし、三田の農業を守り、活かすには地産地消をさらに拡大することが重要です。そのためJ・A兵庫六甲・兵庫県と「農業戦略会議」を立ち上げました。今年度には、就農を希望する方への支援を実施する予定です。また、身近な取組みとして、「三田米」の消費拡大のため、ロコモークの製作や米粉の活用などを進めます。

※ 地元で採れた農産物を地元で消費すること。



5月の三田

議員の質問

議員は、議会の本会議で、市政についての疑問点や将来の方針を幅広く質問します。

3月定例会では、10人の議員が質問にたちました。

住み続けたい「まち」

な人口減少社会がはじまるなかで、三田市だけが若い世代を増やしていくことは困難です。

今後、いわゆる団塊の世代が高齢化を迎えます。元気な高齢者のみなさんが三田のまちづくりの原動力になっていただくことを期待しています。

このような大きな市民力が三田の強みであり、まちづくりの担い手として、活躍の場と機会を提供していくための施策を積極的に進めます。



効果的なごみ収集体制を確立すべきー

市のコスト削減のため、現在の市の職員が行っているクリーンセンター・環境センターの収集業務を民間委託することが必要です。今後の取組みは、

市の職員が直接収集を担当しているのは、収集効率の悪い郡部や旧市街地です。ニュータウン地区は民間に収集を委託して

います。

ごみ収集の維持・安定などから、収集業務のすべてを委託化するのには難しいと考えられています。しかし、今後は、委託範囲を広げ、市全体の職員定数の見直しをすすめます。収集担当職員については、業務の転換なども含めて考えていきます。

現在、民間に委託しているごみ収集業務は、競争入札を行っています。今年度から入札実施に向けて公募作業をはじめ、来年度から一部で入札を試行していきます。

市民病院の未収金対策は？

今年度市財政から約18億円を市民病院に支出することですが、市民病院の経営努力も必要です。未収金の収納向上対策について、どう考えていますか？

平成16年度から20年度までの過去5年間の未収金は、年約300万円程度です。収納対策として、入退院コーナーで高額医療費制度、社会保障制度に関する情報を説明したり、分割払いなどの相談を行ったりしています。

未収金は発生時点で督促し、次に電話や文書、面談、定期的な個別訪問による収納に取り組みんでいます。

また、悪質なケースは、小額訴訟などの法的な手続きをとるなど収納強化を図ります。

涼しくなるおむね。学校教室

① 新年度予算で教室に扇風機がつけこじなりました。しかし、小学校からではなく中学校から設置する計画と聞きます。その理由は？

▲ 小学校に比べて中学校は、授業日数が多いこと、さらに夏休み中にも学力補充に取り組みの学校が多くあることから、新年度は中学校から先行して扇風機を設置することにしました。来年、23年度については小学校の3分の2の教室に、24年度では小学校の残り3分の1の教室と幼稚園のすべての保育室に扇風機を設置してまいります。

外国籍の子もたかこ

② 日本語に慣れない外国籍の子どもには、学校においても支援が必要ですか。県では、すでにこうした取組みをしていますが、三田市でも取り組んでいますか？

▲ 現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。



子どもたちは一赤ちゃん

③ 子育てに不安を感じる保護者が増えています。指導員が赤ちゃんのお宅に訪問したり、保護者同士の仲間づくりを支援したりするなど積極的な施策を実施する予定ですか？

▲ もっとも支援が必要な出産後すぐの時期や、その後の育児のさまざまな場面、不安や負担を感じている保護者が確実に専門機関の支援や相談に出会えるよう、子育て支援の情報をお知らせに力を入れることや、相談支援体制を充実していくことが必要です。そこで、今年度から生後4か月までの赤ちゃんがいいるすべての家庭へ「赤ちゃんサポーター」が訪問します。

また、幼稚園や保育園が子育て相談や園庭開放をすることで、保護者同士の仲間づくりや子育て支援をする「地域子育てステーション事業」についても、実施する圏を増やしていきます。

児童虐待防止の取組みは

④ 子育て支援ネットワーク拠点での相談事業の具体的な内容と、家庭児童相談室の関係について伺います。

▲ 市の次世代育成支援計画の重点プロジェクトの一つである「子育て支援ネットワークの充実」を図るため、多世代交流館に「仮称」子育て情報ひろばを設置し、子育て情報の発信を行います。また、子育て全般にわたる相談コーナーも設置し、家庭児童相談室と連携しながら相談支援体制を充実します。



子どもたちの命を救う

⑤ 乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「ワクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

▲ ワクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、新年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。すべての子どもたちが利用できるように保護者の所得制限は設けず、対象は満2か月以上5歳未満の乳幼児で、助成金額は接種費用の2分の1、上限額は4000円、助成回数は、接種を開始した月齢に応じて、4回までとします。

この制度については、乳幼児健診の時や市広報紙などで広く市民のみなさんにお知らせし、乳幼児のすこやかな育ちを応援していきます。

女性を救うワクチン

⑥ 若い女性の発症率が増えている「子宮頸がん」が「た」に予防効果があるワクチンの接種費用を市が助成してはどうか？

▲ 現在、市では子宮頸がん検診の無料クーポン券をお配りし、20、25、30、35、40歳の女性を中心に子宮頸がん検診の受診を積極的に呼びかけています。また、子宮頸がんは、ワクチン接種によって予防できる唯一の癌

こころもと安心して暮らせる「まち」

スムーズな社会復帰へ

⑦ 思わぬ病気や事故で急性期の医療を受けた後、社会復帰するにはリハビリ環境が整っていることが必要です。しかし、三田市では十分ではありません。充実をどう考えますか？

▲ 病気や事故に見われた方が、住みなれた地域で生活が続けられることは大切です。病気や事故の急性期から回復期へへて、維持期へとつづくためには、適切なリハビリテーションを継続的に受けられることが必要です。介護老人保健施設では、介護や機能訓練（リハビリ）などの必要な医療を行っています。また、居宅サービスとしては、理学療法士などが訪問し機能訓練を行う訪問リハビリテーションがあり、介護老人保健施設や病院においても通所により機能訓練を受ける通所リハビリテーションなどが行われています。

⑧ 要介護認定者やその家族への「障害者控除」が適用できることをケアマネジャーを通じて、もっと周知してはどうでしょうか？

▲ 介護保険料納付確認書や市広報紙により、要介護認定者に対する所得税などの障害者控除の周知を行っています。今後、市ホームページや高齢福祉ガイドブックへの掲載を検討



川本幸民 (1810 - 1871)

⑨ 今年度は三田出身の蘭学者「川本幸民」の生誕200年記念の年です。さまざまなイベントが企画されていますが、こうした事業を来年度以降も続けていけますか？

▲ 200年記念事業として、幸民まつりや幸民検定、幸民に学ぶ子どもと理科学実験などのイベントを市民活動団体とともに企画・実施していきます。

特に、川本幸民を育てた三田藩「丸亀氏」という歴史的な共通ルーツをもつ三重県鳥羽市や行政間だけでなく、市民のみなさん同士の幅広い相互交流を進めます。

また、関西学院大学理工学部と連携して、「さんた川本幸民記念賞」の創設を検討しています。

※ 著書：明治維新期の蘭学者。物理、化学に精通し、日本の科学の発展に貢献。マッチ、銀板写真なども試作しました。また、日本で初めてビールを醸造し、東京浅草で試験会を開催しています。